

令和5年度 第11回教育委員会定例会

日時、場所及び出席者

日時及び場所	出席者	
令和6年2月9日(金)	教育長 坂元 裕人	教育総務課長 堀留 豊
午後2時00分	教育委員 田原 正人	学校教育課長 川崎 史明
↓		
午後3時30分	教育委員 葛迫 幸平	社会教育課長 大山 昭
第2研修室	教育委員 田之上 厚美	国体推進課長 米田 昭嗣
	教育委員 福里 由加	

会議要旨

- 1 開会
定刻、定足数に達しており、令和5年度第11回教育委員会定例会を開会した。

- 2 令和5年度第10回定例会会議録の承認について承認

- 3 議事
報告第3号 垂水市スクールバス等の利用に関する規則の一部を改正する規則について

- 4 その他

- 5 委員並びに教育長及び課長報告

- 6 閉会

議 決 事 項

件 名	提案理由	審議の状況	採決の次第
報告第3号 垂水市スクールバス等の利用に関する規則の一部を改正する規則について	スクールバスの利用について、特認申請の手続きを追加したものである。		

議 事 内 容 等

3 議 事	<p>報告案第3号 垂水市スクールバス等の利用に関する規則の一部を改正する規則について</p>
教育総務課長	同改正規則の内容とスクールバスの利用における特認申請の手続きを説明。
4 その他	
教育総務課長	<p>令和6年度教育委員会定例会の日程案について</p> <p>令和6年度の教育委員会定例会の日程について、現時点の予定として、お知らせを行った。</p>
学校教育課長	<p>令和5年度鹿児島学力定着度調査結果（最終）について</p> <p>令和5年度鹿児島学力定着度調査結果について、小学校5年、中学校1年、中学校2年の結果について、報告を行った。</p>

5 委員並びに教育長及び課長報告

委員並びに教育長及び課長報告に入る。

田原委員

1月26日の総合教育会議、国の方針に従って、5年ごとに策定される県や市町村の教育大綱教育振興基本計画の策定の年になっているということで、市長と垂水市の教育の未来や課題について話し合いました。事前に配布されました資料も膨大な資料でした。目を通すだけで大変で、十分な理解までは難しかったと思います。ただ、垂水市が取り組んでいるGIGAスクール構想は、国の施策の本流を進んでいるというのは間違いないなと思いました。話し合いの中でタブレットを活用する授業のメリットやデメリットも明確になったことや、個に応じた指導がさらに発展していく方向にあることを確認できたのは大変よかったと思いました。本市の課題である不登校についてですが、来年度から一歩前進の取り組みがなされるということが分かって大変よかったなと思います。くしくも不登校については、この日から3日後ぐらいでしたか、1月28日の日曜日、NHKのスペシャル「学校の未来」不登校30万人から考えるという特集がありました。その中で色々取り上げられていました。有償のフリースクールの様子、熊本市が取り組んでいるオンライン授業と教育支援センターの取組。しかし、2,760人の中で613人はまだ救われていない、まだ全然こないというか、連絡が取れないというか、そんな子供たちがいるということでした。それから、山形の天童市ですが、ある小学校はカリキュラムの8割を学校でやって、あとの2割を児童の自由学びとしているということで、試験的にやっているのでしょうか、それに対して、児童は学校が楽しいと言っていました。ところが先生たちはやっぱり、その学びが正しい学びになっているのかといつも疑問を持っているとのことでした。それから韓国も不登校が増えてきているようで、韓国はものすごい受験競争だと言われておりましたけれども、それについていけない子供が出てきて不登校が非常に増えているみたいです。その子供たちを集めて、代案学校を95校作って、学校として認可し、無償で卒業資格も与えているそうです。カリキュラムは国語と社会が必修で、あとのあとは、生徒たちに学びたい内容、勉強したいものを自主的に学習させるという形でした。それからフランスもやっぱり同じように、不登校が多いということで、支援施設を作って、国家資格を持ったエドゥケーターという教師と福祉の専門家のような形でしょうか、そういう人を雇って一人一人に関わるエドゥケーターを配置しているとのことでした。いろんな形で不登校の子供たちに学びの機会を与えようということで世界中努力しているんだというのがわかりました。これも1つの学校の新しい形とか、不登校の子供たちを救うための学校の形なのかなと思いました。いずれもまだ試行錯誤の段階で、絶対だというのはありません。まずは1歩踏み出して、垂水方式というか、そういうものを、作り上げていけばいいと思ったところでした。

それから水之上小学校の先生方から要望があったことです。パソコンを使うのに職員室も教室も有線なので無線にして使い勝手を良くしてもらえないかということでした。それからあと1点ですが、運動場周辺の芝刈り

を市の芝刈り機でやってもらえないかということでした。以上です。

葛迫委員

同じように1月26日、市の総合教育会議に出席。教育振興基本計画における意見交換会が開催されました。その中でちょっと気になった点がありました。5つの基本の方針の2番目に取り上げていた「誰1人取り残されず、すべての人の可能性を引き出す共生社会の実現について」ですが、このことは全世界の教育の永遠のテーマであるのかなあと感じています。すべての人にすべての子供達に教育を施す日本の国は、すべての子供達への教育がされていますが、他の国に目を向けてみると、子供達への教育がなかなかされていない、そういう地域がたくさんあると思います。日本の教育のこのありがたさを子供達、そしてすべての大人達は感じて欲しい。すべての子供達に同じように教育をする。そして、1人の大人へと成長させていく。やはりこのことが一番大切であると思います。すべての子供が平等に学ぶことができる日本、日本の教育のありがたさをみんな知って欲しいなあと、分かって欲しいなと、日本のすばらしい教育方針だったなと思います。意見交換の中で、福里委員は、英語教育、そして垂水の海外留学体験のありがたさ、田之上委員は読書のよさを考えること。そして、田原委員は、タブレットのよさ、そしてまた弊害について警鐘を鳴らされました。様々な意見が出た素晴らしい意見交換会でした。

2月2日に生涯学習推進会議の講師代表で参加しました。はじめに、令和5年度生涯学習の実績について、15個の講座が開講、203名の受講生が学びについたことが報告されました。出前講座の実施状況については、絵本の読み聞かせや健康づくりなど、16の団体、484名が学び、また、公民館講座では49の講座があり、多くの市民が生涯学習の学びについての報告がありました。次に、令和6年度の新しい市民講座の案内や、子供達を対象にした新しい単発講座の案内が発表されました。新しい年度に向けた作業が着々と進んでいる様子が見え、また、コロナ禍という言葉が冷めつつある昨今ですが、受講生の間では様々な意見がありました。1つの例を挙げると、コロナ禍以前は日程の問題はなかったのですが、現在の日程はバラバラな日程になっているため、基本的な日程を考えて欲しいです。例えば、毎月第3日曜日、第2土曜日などといった日程を崩さない方向を考えて欲しいです。受講生が休まないように工夫してもらいたいとの受講生の意見を説明しました。来年度へ向けて、市民講座が市民の皆さんの活用に繋がっていくことを期待したいです。以上です。

田之上委員

私も総合教育会議です。会議では、令和7年度からの教育振興基本計画の策定に向けて、基本となることについて詳しく説明を伺いました。その後、それぞれに意見を述べさせていただきました。これから各方面でさらに審議を深めていただき、本市の実情に沿ったものになるように策定していただきたいと思いますと思っています。

私は学校運営協議会に出席しましたので少しお話しします。1月11日に垂水中央中学校、2月7日に垂水小学校の運営協議会に出席しました。2つの学校ともに学校評価アンケートの結果の説明と、子供達の現在の学校生

活の様子などを伺い、新年度のグランドデザインについての説明を受けました。この会の中で、中学校ですが、中学校では高校入試に向けての模擬面接を行いました。私たち委員が2、3人ずつで面接官となり、生徒4、5人ずつの集団面接を行いました。面接のポイントや流れ、質問などについては、事前に例を示していただいたものを活用し態度や表現力、積極性・熱意などに注目をしてきました。直に私たちも生徒さんたちと向き合い意見や思いを聞いたり、面接試験に向けて頑張っている様子などを見ることができました。校内の先生方以外の方に面接をしてもらうことが子供達の良い経験になるからということでの実施になりましたが、最後に校長先生が私の自慢の子供達を見てもらえてよかったですとおっしゃった言葉が非常に印象的でした。それから垂水小学校ですが、先ほどもお話が出ましたが、学習定着度調査でとてもいい結果が出たとのうれしい報告がありました。1年間を通じて計画的に取り組んだことがその一因ではないだろうかということでした。子供達からも「頑張った成果が出た。頑張ってよかった。自信が出てきた。やり切ってうれしかった。これからも頑張りたい」などの声がたくさんあったそうです。また、子供会活動や地域行事への参加について、垂水小学校ではなかなか厳しい状況にあるという話が出ました。児童数もだんだん減ってきて、子供会自体が1つの団体でできていないという実情もあるようです。あとは少年団活動もですが、いろんな要因はありますが、今後どういう形でそれらをやっていくのか。今までやってきたものをすべてそのままというのはなかなか厳しいのかもしれませんが、コロナ禍でそれこそコロナ禍で何もなくなった状態だったので、今、これをチャンスにして、これからのあり方っていうのを考え直す機会なのかもしれないですねという話が出たところでした。以上です。

福里委員

娘と息子は小5と中2なのでどちらも鹿児島定着度調査の対象でした。小学校の方は、早くからよかもんなどを解くなど取り組んでいて、家でも今日はこんなことをしたとか、よく話をしてくれました。校長先生の学習の取り組みを一緒にしていただいて、前にも話しましたが、校長先生が書いた絵をもらうことがすごく励みになっていたようでした。すごくそれが子供達にとって、そういうのがやっぱり子供に効くんだと思うぐらいよかったです。当日、その定着度の調査があるときに、娘が緊張すると言って出かけていきました、息子の場合は順番が出ないから、頑張ればいいんだよって言いました。娘の週報にもスクールライフノートでの振り返りが載せてありました。その内容は、難しかったけど最後まで頑張ってやりきれてうれしかったとか、プリントをやったから分かりやすかった、算数がいつもよりできてうれしかったとあり、みんな頑張ってきたんだというふうに感じました。娘にもなんて書いたのか聞いてみると、今日までの定着度調査の問題を頑張ってよかったということでした。途中で経過を結果それはスクールライフノートに書いたのは結果が出たときじゃなくて、その当日の日記なので、その過程で今まで頑張ってきたこと、できたっていうのを子供がすごく感じているような感じがして、すごく意味があったんだなというふうに思いました。みんな自信に繋がったんじゃないかと思えます。

1月31日は学校保健委員会の研修会に参加しました。やる気を育む言葉かけという演題でしたが、言葉かけの大切さ、家庭や職場でもすごくひしひしと日常感じています。私が自分の子供に掛けている言葉は駄目なものだらけですけど、子供のやる気が出る言葉がけを工夫していきたいと感じました。

先生の話の中で一番印象的だったのは、社会に出たときにつぶれないように、あくまでも主導権は親が持ち、子供に選択肢を与えるということでした。今は自主性とか主体性とかいう言葉がすごく主流になって、何でも子供達にという感じがありますが、主導権は親という言葉聞いて、子育ての大切さや重みを感じました。

2月3日午前中は、垂水市のPTA会員研修会に参加しました。垂水小学校研修部の会員が参加することになっていましたが、受付をしたのはたったの14名でした。少なさにびっくりしました。研修部が自動的に参加するものだったので、最初から参加しないのであれば研修部以外にも募集をかけたほうがよかったんじゃないかと思いました。教育長先生の講話は「令和時代の家庭教育の在り方と保護者の役割」でした。子育て、まったく中の私にとっては、すごく得るもの多くて、子育ての方にはすごく聞いて欲しい内容だったと感じました。学校で1家庭1自慢という活動をやっていますが、恥ずかしながらその意義というのは、私自身あまりよく知らず、教育長先生のお話の中で、言葉の中で明るく元気に挨拶とか靴をそろえるとか、1日1善、1日1回のお手伝いなど、その子にとっての当たり前が大きな財産になると言われ、本当にそうだなと思いました。

その日の午後は、東串良でのPTAの研究公開に参加しました。各小学校の取り組みの発表の後に、食について考えるというテーマで、4人の講師を招いてパネルトークあり、子供の食事の大切さや現状を聞くことができました。1月、2月とたくさんの研修会に参加させてもらって、実行できることは少ないかもしれませんが、そうなんだと思うことが増えて、すごくうれしくなりました。普段、仕事の忙しさにかまけて子育てが私は十分できていないので、子供達と一緒に頑張っていきたいなというふうに思います。以上です。

教育長

まずは総合教育会議です。教育委員の皆様方は、何に関心を持っておられるのか。或いは、教育の課題としてどういうお考えをお持ちなのかというのを改めて知るいい機会だったなと思います。皆様方から出された意見、地域の実態、この垂水の実態を踏まえて子供達のために、或いは市民の皆様方のためにいい計画を作っていきたいと改めて、心に誓うところでした。

2点目です。2つお話をさせていただく機会がございました。1点目が立志の集いでの話です。非常に寒いでした。1月21日。気温は確か4～5度だったと思います。鹿児島市の伊敷台というところの校区の立志の集いに呼ばれて話をしました。風が強くて生徒達はガタガタふるえているんです。かわいそうにもう帰っていいよって言ってあげたいぐらいの日でした。それでも一生懸命聞いてくれる子供達がいるとやはりこっちも張り切って話をせざるをえない雰囲気してくれたのがありがたかったです。1時間程度、話をしましたが、結論から言うと、いろんな人生があって、その中

で、きっと皆さんに合う夢があるはずだから、そのきっかけを私の話から掴んでもらえればありがたいというような話をしました。自分を語りながら、5例の生き方を紹介しました。

1つは20歳の集い。皆さんにも見ていただきましたがやっぱり今の子供達は案外考えているということ。或いは自分の嫌なものにしっかり向き合っただけでいいという、そういうすばらしいエネルギーを持った存在であること。だから、見た目で判断しちゃ駄目みたいなことを話しました。今の子供たちは決してこの鹿児島県とか日本とか狭いところを見ているんじゃない、世界に目が向いているよということも併せて話をしたところでした。

2点目です。私の同級生、友人でもある宮田屋コーヒーの社長の話をしました。この人はもうご存じだと思いますが、非常に面白い方です。何が面白いかというと、その人生もさることながら、今の経営者の感覚、ようするに彼は、こっちで儲かる必要はないと言うんです。いわゆる商売の本番は北海道で、あっちでしっかり儲ければ、こっちは社会貢献、或いはふるさとへの恩返しと言ひ、そういう感覚は素晴らしいと思うんです。そういう意味では、しっかりとお金を稼ぎながら、そして地元へも貢献するという彼の中の経営哲学みたいなものに触れた内容で子供達に話をしました。

3点目は、北海道大学の永田教授の話でした。彼のいわゆる動機が面白いということ。チームでロケットを打ち上げて、喜びに浸っている人たちを見て、輪の中に入りたいたいという、いわゆるモチベーション。ここから彼は宇宙工学という道へ進むんです。そういうちょっとしたきっかけ、何がきっかけになるかわからないというところをお話ししました。

4点目は宮本輝という作家の話をしました。この人と私はひよんな縁で宮本輝さんのご自宅を私の友人と私と2人で訪ねたことがあります。宮本さんは芥川賞作家です。ですから本当に誰でも訪ねて、はいどうぞっていう家ではないんですが、たまたま奥さんが鹿児島県の出身ということもあって、一緒に行くかという事で、尋ねたところだったんです。書齋を見るとある意味感動です。もう本当にこんなところから、例えば「優駿」とか、例えば、「錦繡」とかそういう作品が生まれていった場所だと思つて、感無量でした。そういう中で、何でこの人はという部分もあって、いろいろ話をすると、いろんなエピソードを聞かせてもらいました。実はこの宮本輝さんというのは、病気との戦いでもあったということでした。結局、なぜ作家になったかということ、自分はいいところの坊ちゃんでもできたが、逆にその商売が失敗して、1度2度倒れていくわけです。そういう中で頼ったのが本なんです。読書の世界にのめりこんでいき、そういう中で得た知識を作品という形に昇華して、彼はどんどんどんどん本を書いていくんです。その中で、驚いたのが彼が行ったこともない所を描写する、或いは知らない国民性、どういう気持ちを持つてるとか感情を持つているとかということを描くんです。ですので、ロシアに住んだこともないのに、ロシアの風習とか、ロシアの方々の考え方とか、そういうものを見事に作品の中に閉じ込めています。ロシアの人が読んだときに、これロシアに住んだ人ですよと聞かれ、いいえロシアに住んでいませんよという驚かれるのです。それぐらい、読書で得た知識、量、そういったものを、作品

の中にぎゅっと圧縮して書く本当に驚くべき才能です。それから、「ドナウの旅人」という長編小説がありますが、彼は出版社の出費で取材に行くわけです。そこで、ビールもワインも好きな男ですから、お酒を飲んで、おいしいチーズやソーセージを食べるんですが、文字は一文字も書けなかったそうです。そして、帰りの飛行機の中で1時間ぐらい黙っていたそうです。そして、5分ぐらいペンが走ったかと思うと、できたと言ったらしいです。随行の出版社の人はびっくりするわけです。作品ができたからです。作品ができたということは、ストーリーは完全にでき上がっているわけで、登場人物は誰で、どんな話で展開していくということも、描き切っているわけです。それはきっと、彼が病気と向き合いながら読書に没頭したという経験、或いはそういう生活体験と重なって、得た能力かなと思いました。

5点目は私の最初の教え子の話です。すごく面白い子で勉強の嫌いな子でした。だけど、粘り強く取り組むことができ、元気のあるとにかく積極的な部分である子でした。ところが、中学校で反抗期と相まって、いじめにもあい不登校気味になり、親にも反抗し、というところでどんどん1人離れていくわけです。そういう中で、彼女が救われたのは、彼女の中で親友という女の子いるんですが、その子が、ちょっと背中を押してくれたそうです。それで生徒会役員に立候補し、会長になりました。会長になった以上勉強もしなければということで本気で勉強しました。その結果、いつまでも親元から通うような生活は駄目だということで宮崎に行き、宮崎に行って一回も返ってこなかったそうです。とにかく勉強して、憧れのCAになっていったわけです。そして、CAから幅を広げ、人脈を広げていきながら、マナー講師だとか、職能開発のメッセンジャーになったりしています。最終的に彼女が落ち着いたところは政治家です。彼女の小学3年生4年生の姿を見ている私にとっては驚きですが嬉しいでした。私にとっての自慢の教え子の1人でもあるわけです。これらの話の大事なことは、いずれも共通しているのは何か掴みたいという思いです。別の言葉で言えば、夢を持つということ。そういう思いを大事にして欲しいという話をするのでした。

報告の最後になりますが、2月3日の市P連会員の研修会では、家庭教育の在り方と保護者の役割について、様々なデータや事例を基に講話をしたところでした。

教育総務課長
学校教育課長
社会教育課長
国体推進課長

1月10日から2月9日までの主な行事等について各課長が報告。
併せて、2月10日から3月11日までの行事予定についてお知らせした。

6 閉 会